

第 13 次：三島（里中）西地区（1978～79 年）

古墳時代の流路 2 条のほかに、近世の井戸 6 基・溝 15 条以上・敷石遺構・土坑 2 基が検出された。

流路 1 は調査区の南東から北西へ蛇行する自然流路で、幅 3～5 m、深さ 90 cm を測る。弥生時代に堆積した砂礫層が基盤で、古墳時代前期から後期の土師器・須恵器・木器が多量に出土している。流路 2 は調査区の中程から検出された自然流路で、幅 10～15 m、深さ 1～1.4 m の規模で北西へ延びている。

出土遺物には縄文時代から近世のものがある。縄文土器・弥生土器・古墳時代以降の各種土器・製塩土器のほか、鞆羽口・紡錘車・土玉・土馬・炉壁か鋳型と思われる用途不明土製品・円盤形土製品・古瓦などの土製品、石鏃・石匙・石槍・楔形石器・石斧・石庖丁・敲石・勾玉・管玉・白玉・玉未製品・剣形石製品・紡錘車・石袴・砥石などの石製品、小型素文鏡・銅鏡片・銅鏃・耳環・釘・金具・銭貨・鉄滓などの金属製品、把・把頭・鞘口・鞘などの刀装具、農具、機織り具、椀・斎串その他の木製品、牛や馬などの骨・果実・多量の桃核・種子などの自然遺物などがある。

第 14 次：杣之内（木堂方）地区（1980 年）

布留川南岸の低位段丘上に位置する。1988 年、隣接する北側が第 27 次：杣之内（樋ノ下・ドウドウ）地区として調査された。その際、本調査区の遺構面を露出させ、東側及び南側部分を拡張して調査を行っている。その結果、南側の総柱建物が南へ 2 間延びることとなり、当初、掘立柱建物 1 とされていたものが、杣之内（樋ノ下・ドウドウ）地区の報告書では、2 棟の総柱建物（掘立柱建物 1 と 2）に変更されている。当地区の報告書は既に刊行されているが、杣之内（樋ノ下・ドウドウ）地区の報告書では、調査成果の再録と修正が行われている。掘立柱建物や遺物の説明に重複する点があるため、ここでは簡単に触れる。詳細については「第 27 次：杣之内（樋ノ下・ドウドウ）地区」を参照。この調査区では、調査区の西側を北東から南西方向に掘り込まれた幅約 13 m、深さ約 2 m の大溝と、東岸に広がる掘立柱建物群・柱穴群・土坑・溝が検出された。大溝は古墳時代中期の掘削で、平安時代に大幅に埋没し、中世には窪みの状態だったとみられている。遺物は、古墳時代から中世までの土器・製塩土器・白玉・子持勾玉・砥石・ミニチュア竈・土馬・瓦・鞆羽口・鉄滓・鈴・飾金具・鉄鏃・火打鎌・銭貨・馬歯・馬骨などが出土している。掘立柱建物は柱穴群から 11 棟が復元されており、3 棟の総柱建物と 8 棟の掘立柱建物がある。

第 15 次：三島（里中）東地区（1980～81 年）

南側の調査区、A 区では弥生時代の自然流路である流路 3 と流路 4 が検出され、流路 4 からは弥生時代の土器・石槍・削器が出土している。

北西と北東の調査区、B 区と C 区では古墳時代の流路 1、弥生時代後期末に埋没した流路 2、古墳時代前期の井戸 1 基、中近世の井戸・溝・杭などが検出されている。

調査区の多くを占めるのは流路 1 で、後世の削平や掘り込みを受けて不明瞭な部分もあるが、南東から北西へ流れ、中央部からは西南西に流れる。規模は B 区で、幅 14～15 m、深さ 80 cm、

第一章 布留遺跡の概要(下)

C区で、幅10m、深さ80cmを測る。

出土遺物は縄文時代から近世までである。その多くは流路1からの出土で、縄文土器・弥生土器・古墳時代とそれ以降の各種土器・製塩土器のほか、鞆羽口・土製紡錘車・土馬・古瓦などの土製品、石槍・削器・石鏃・紡錘車・有孔円板・剣形石製品・勾玉・管玉・白玉・玉未製品・砥石・板石硯などの石製品、鈴・銅鏡・銅釘・銭貨・鉄滓などの金属製品、ガラス玉、把・把头・把縁・鞘などの刀装具、農具・機織り具・豎櫛・火鑽臼・琴柱などの木製品などが出土している。流路からは多量の遺物が出土しているが、土砂の堆積状況や土器の摩滅が見られないこと、重みのある鞆羽口片や鉄滓が多数出土していることなどから、これらの遺物は近くから投棄されたもので、生活域や工房は近くにあったとみられる。地形から見て、調査区北側の微高地かやや上流の東地域が考えられる。三島(三島神社・鏡池)地区で検出された柱穴群もその可能性がある。

第16次：守目堂(ツルクビ)地区(1982～83年)

布留川南岸の低位段丘上に位置し、近世に築造された溜池の周囲で遺構が検出された。遺構には、弥生時代後期の土坑5基・溝1条、古墳時代中期末の円墳5基・溝2条・小石室・埴輪棺・土器棺、古墳時代後期～終末期の掘立柱建物5棟、奈良時代から平安時代の掘立柱建物1棟・焼土坑、鎌倉時代から室町時代の溝10条・道路遺構・土坑18基・井戸6基・掘立柱建物16棟・墓4基・周溝遺構2基・柵2箇所・柱穴、江戸時代の溝2条・土坑4基がある。そのうち、古墳時代中期とみられる溝2からは、土器のほかに鞆羽口・鉄滓・勾玉が出土している。この時期に近辺で鍛冶が行われていたとみられている。そのほか、西地区の地山直上では、完形に復元できる古墳時代の移動式竈が1点出土している。

第17次：布留(堂垣内)地区(1983年)

縄文時代早期～晩期、弥生時代中期、弥生時代末～古墳時代の遺構・遺物がある。縄文時代の遺構・遺物には、豎穴建物とそれに伴う炉跡・土坑・立石・焼成粘土塊などがあり、土坑の1基からは硬玉大珠が出土している。遺物は調査区の中央やや南を、東から西へ流れる自然流路からも多数出土している。

弥生時代の遺構には、大和第Ⅲ様式の土坑1基が検出されている。布留遺跡で初めてとなる中期の遺構である。ほかに前期の蓋口縁部片1点が出土した。

古墳時代の遺構には、初頭の豎穴建物・溝・落ち込み、土器溜まり、前期の土坑・井戸、中期の豎穴建物・土坑・井戸、後期の溝などがある。この時期の自然流路は2条あり、それぞれに初頭と中期、前期～終末期の遺物が含まれていた。そのうち、前期から中期にかけて流れていた流路は遺物が豊富で、玉などの祭祀関連遺物や前期の鞆羽口3点・鉄滓などが出土している。

第18次：布留遺跡(豊井)地区(1983年)

布留川北岸、扇状地の東側に位置する。第5層で土坑10基と落ち込み1箇所が検出されている。

第一章 布留遺跡の概要(下)

土坑 66 では小型の壺が完形で出土した。落ち込み SX 3 ではやや大型で、両面加工を施した石が出土している。土坑内の土器は破片だが、土器表面にタタキがあり、弥生時代と考えられている(後期末～古墳時代初頭か)。第 5 層ではほかに、「地床炉」1 基と「地面の焼けた部分」2 箇所が検出された。第 4 層では土坑 34 基・溝 1 条、第 3 層で土坑 19 基・溝 7 条が検出されている。そのうち、土坑 19 からは鉄製紡錘車出土した。第 2 層では中・近世の素掘溝が検出されている。

第 19 次：豊井(宇久保)地区(1984 年)

布留川北北流の東側、扇状地北岸に位置する。調査区の北区南半及び南区は近世まで布留川北北流が流れており、遺構は北岸となる北区の北側及び東側で検出されている。

主な遺構としては、古墳時代の掘立柱建物 6 棟・井戸 2 基・土坑 1 基・溝 1 条・土器溜まり、奈良時代の掘立柱建物 1 棟、平安時代の掘立柱建物 1 棟・井戸 2 基、鎌倉時代の溝 2 条・井戸 1 基、室町時代の濠 2 条・濠 1 から川へ排水するための溝 2 条などがある。

古墳時代後期後半の掘立柱建物 1 は柱穴の一辺が 60 cm 前後を測る。建物の規模も、東西 3 間×南北 2 間で柱間は 5.5m × 3.7m の総柱建物である。また、掘立柱建物 8 は主軸が建物 1 と同じで、同時期に建っていたとみられる。ほかの掘立柱建物の詳細な時期は不明だが、これらの建物と扇状地を見渡せる布留川北北流の北岸というこの立地は、十分に注意を払う必要がある。

北岸から投棄されたとみられる古墳時代中期後半の土器溜まりからは、土師器高杯 67 個体・須恵器のほかに、勾玉 1 点・管玉 2 点・剣形石製品 1 点・有孔円板 4 点・白玉 789 点の滑石製石製品、鉄鍬 2 点・鉄鎌 1 点・鉄鍬茎 1 点・鉄片 1 点の金属製模造品などが出土している。これらの遺物は、周辺で祭祀が執り行われた後、ここに投棄されたものとみられる。市北部の櫛本高塚遺跡で検出された古墳時代後期の祭祀場跡では、祭祀に使われたとみられる土器が北斜面に投棄されていた。同じような状況であったと思われる。

室町時代の濠 2 条は、幅が 4～4.5m、深さ 1.6～2 m を測る。南東 100m の豊井(打破り)地区では二重の濠を持つ中世の居館跡が検出されており、酷似する。時期も 15 世紀末から 16 世紀初頭と同じであり、この 2 条の濠は居館を囲む濠とみられている。

第 20 次：豊田(三反田)地区(1984～85 年)

調査区全域が布留川北北流の氾濫源に含まれ、遺構は確認されなかった。この氾濫源は時に流れを変える幅の広い流路帯だったようで、人びとの活動に大きな制約を与えたと考えられる。出土遺物には、縄文時代早期・後期・晩期の土器・石器、弥生時代中期の土器、古墳・奈良時代の須恵器・土師器、中世の土器・瓦がある。

第 21 次：豊井(六反切)地区(1985～86 年)

調査区中央の広い範囲から、東から西へ向かう自然流路が検出され、縄文時代早期の遺物が多数出土した。

第一章 布留遺跡の概要(下)

調査区の北側では古墳時代初頭から前期初頭の溝1条が検出され、南側では縄文時代中期末から後期初頭の流路や包含層が検出されている。

第22次：三島（木寺）地区（1985～86年）

縄文時代晩期の貯蔵穴7基・土坑2基・焼土坑2基・溝状遺構1基が検出されている。遺物は、石核・石鏃・石錐・削器・木材片・植物遺体・堅果類が出土した。

第23次：杣之内（赤坂）地区（1987年）

縄文時代の土坑3基と古墳19基が検出されている。縄文時代の土坑の1基からは早期後半の深鉢が、もう1基からは石鏃2点が出土している。そのほかに、古墳時代以降の遺構や包含層などから、石鏃・楔形石器・削器・石庖丁・砥石が出土している。

古墳は直径（一辺）が4.5～13m程の円墳か方墳が丘陵上に密に築かれており、互いの墳丘を切ったり、接した状態で築かれていた。時期は古墳時代中期末から後期後半で、奈良時代まで追葬が行われている。遺物には土器・刀子・鉄鏃・鉄釘・鉄製品・鉄滓・耳環・勾玉・管玉・白玉・土玉がある。そのうち、鉄滓は5基の主体部や周溝から出土しており、被葬者は鍛冶に関わる集団の一員と考えられている。

第24次：杣之内（北池）地区（1987～88年）

北側の調査区で、古墳時代中期末から後期前半とみられる古墳1基と奈良時代の土坑墓1基が検出された。古墳は推定全長30m、後円部径18m、幅4～5mで、周濠を持つ前方後円墳とみられている。遺物は周濠から、土器・円筒埴輪・形象埴輪・緑泥石製の剣形石製品と紡錘車の破片が出土した。そのほか、弥生土器・黒色土器・瓦器・瓦・焼土・鉄滓・石鏃・石匙・玄武岩片も出土している。

南側の調査区では、弥生時代後期末の土坑1基・溝約20条、古墳時代前期の流路1条・竪穴建物1棟・流路1条・柱穴約50基が検出されている。出土遺物には土器のほかに、人物埴輪・鐸形土製品・農具などがある。

第25次：塚穴山古墳（1988年）

古墳時代後期末から終末期に築造された塚穴山古墳の墳丘の一部と周濠、そして外堤部分が調査された。外堤の下では隣接する西山古墳の堤が確認された。そのほかに埴輪棺墓・石棺墓・小石室・土坑が各1基検出されている。また、墳丘と西山古墳の堤からは、中近世の土壙墓が34基検出された。

第26次：守目堂（罐子山）地区（1988年）

調査区は布留川南岸の低位段丘が細くくびれる地域で、前方後円墳の罐子山古墳が所在すると

みられていたが、古墳の存在を示す痕跡は検出されなかった。

遺物は、土師器・須恵器・埴輪・瓦・鉄釘・鉄滓・砥石が出土している。土器の時期は古墳時代中期末から後期後半である。埴輪は後期の細かい円筒埴輪片が1,000点以上あり、この地域に、西側に接する守目堂（ツルクビ）地区の小古墳群と同様に、小規模な古墳が何基かあったものとみられている。

第27次：杣之内（樋ノ下・ドウドウ）地区（1988～89年）

布留川の南岸、低位段丘上に位置する。1980年に調査された杣之内（木堂方）地区の北側に隣接する。

調査では、前回の遺構の広がりを確認するため、杣之内（木堂方）地区で検出した遺構面を再度露出させ、その南側や東側も調査区に設定された。

調査の結果、杣之内（木堂方）地区で検出された大溝の延長部分や縄文時代の自然流路、弥生時代後期末の溝、古墳時代の掘立柱建物・竪穴建物・溝・土坑・柱穴群、奈良時代の井戸・土坑・柱穴などが検出された。

縄文時代の自然流路は調査区北東で検出され、東南から北西へ蛇行しながら延びていた。流路内からは後期の土器や石鏃が出土している。

弥生時代後期末の溝は断面V字形を呈し、大溝から西へ10m程離れて、大溝と同方向に延びていた。遺物は、溝底から甕や壺の完形品10個体、上層から土器片約100点・石鏃2点・石匙1点が出土している。

古墳時代中期に開削された大溝は、木堂方地区の延長部分、約20mが検出された。ここでの溝幅は約15m、深さ2mを測る。溝内からは古墳時代中期から中世までの遺物が出土しているが、繰り返された掘削と水流による攪乱のため、底近くでも奈良時代の遺物が出土している。

主な遺物には土器のほかに、製塩土器・白玉・砥石・土馬・鞆羽口・鉄滓・馬歯骨・ガラス玉・銅型などのほか、奈良三彩などがある。

溝は大溝の北西側にあり、北側で北西に約15m延びた後、南西へ緩く曲がり、大溝と平行に延びる。幅が広く浅い溝で、幅は広い部分で約9m、深さは深い部分で55cmを測る。遺物は古墳時代後期前半から奈良時代の土器が出土し、須恵器と土師器の器台各1点・焼土・鞆羽口・小鉄片・滑石製紡錘車2点・碧玉製有孔円板1点・土製紡錘車2点・馬歯骨などが出土した。

この溝は奈良時代には埋まるが、その後、溝跡に1m前後の幅を持つ3条の溝が掘り込まれる。時期は奈良時代後半である。出土遺物には、土器のほかに瓦・土馬・鞆羽口・焼土・砥石・凝灰質砂岩（天理砂岩）・馬歯骨・鉄片・ガラス小玉・刻骨などがある。

また、溝の周辺には多数の柱穴があり、古墳時代中期から奈良時代にかけて、建物群が建てられていたとみられる。

竪穴建物は、大溝の東肩に沿うように建てられていた。16棟を検出したが、同じ場所で複数回、建て替えられている。遺物は、古墳時代後期前半から中頃の土器・鞆羽口・鉄滓・凝灰質砂岩・鉄釘・

第一章 布留遺跡の概要(下)

白玉・ガラス製勾玉が出土している。床に焼土面は確認できなかったが、長形の平面プランや遺物の内容から、これらの建物は大溝に接して営まれた工房跡の可能性が高い。

掘立柱建物は、4棟の総柱建物と15棟の掘立柱建物が復元されている。総柱建物の掘立柱建物1と2は、杣之内（木堂方）地区の調査時は1棟とされていたが、今回、調査区を南側へ広げたところ、さらに2間分が検出された。これを受けて検討の結果、2棟に分けられている。規模は掘立柱建物1が3間×5間（6.6m×9m）、掘立柱建物2が3間×5間（6m×9m）である。総柱建物3は掘立柱建物2と一部が重複し、2間×4間（5.7m×7m）の規模で棟持柱を持つ。掘立柱建物19は大溝と溝の間であって、2間×5間（4.3m×8.1m）の規模を持つ。ほかに掘立柱建物は15棟が復元されているが、柱穴の数からまだ多くの建物があったとみられる。

奈良時代の遺構には、土坑2基・井戸2基・柱穴がある。

第28次：豊井（豊井）地区（1989年）

布留川北岸、扇状地の東側に位置する。範囲確認調査地点、第11-17次：豊井（豊井前）地区—FE20d3・d4—は本調査区の西隣に位置する。

検出した遺構には、弥生時代後期末から古墳時代初頭（庄内期）の竪穴建物2棟と平安時代の土坑・柱穴がある。古墳時代初頭の土器は、受け口状口縁の甕や河内型庄内甕が出土している。第29次：豊井（打破り）地区でも、庄内甕が出土する住居跡群が見ついている。隣接した場所であり、その関連性が注目される。

第29次：豊井（打破り）地区（1990～92年）

縄文時代早期、古墳時代初頭（庄内期）、中世の遺構が検出された。

縄文時代早期の遺構には焼礫集積遺構14基・サヌカイト集積土坑1基・土坑6基がある。遺物は土器・石鏃・削器・楔形石器・搔器・尖頭器・有舌尖頭器・石匙・石錐・異形石器・線刻礫・トロトロ石器・有孔砥石・敲石・磨石・石皿・台石・棒状磨製石製品・有孔石製品・砥石・サヌカイト片などが出土している。

古墳時代初頭（庄内期）の遺構には、竪穴建物6棟・掘立柱建物1棟・井戸1基・土坑4基・溝・自然流路がある。竪穴建物のうち2棟は近接しすぎており、時期差が見て取れる。その後、1棟が埋まった後に掘立柱建物が建てられるが、もう1棟の掘方と接する。このことから2棟の竪穴建物が埋められた後に掘立柱建物が建てられたと認められる。建て替えは3回行われ、その間、居住域として活用されていたことが分かる。

遺構から出土した遺物としては土器と鉄片2点がある。ほかに石庖丁・勾玉・管玉・有孔円板・鞆羽口が出土している。

中世の遺構には、二重の濠を持つ居館・礎石建物9棟・土坑7基・苑池遺構などが検出されている。遺物は土師器・瓦質土器・陶器・磁器・瓦・木器・金属器・鉄滓・土風炉・鋸・毬杖の玉などが出土している。

第30次：別所（別所）地区（1990年）

調査区の北半は布留川北流の流路帯に含まれ、自然流路2条が検出されている。

古墳時代後期には埋まる流路で、出土した遺物には、縄文土器・石器・弥生土器・木製品がある。

流路の南岸となる中央西側で、古墳時代か奈良時代の井戸1基が検出された。また、中央東側では土坑10基以上が検出されている。土坑の大きさは0.3～1.7mと大小がある。遺物は土師器・須恵器・管玉1点・白玉5点・石製未製品など98点・石鏃5点・石庖丁2点・削器1点、鍬1点・棒状加工品1点・板状加工品1点が出土している。また、この地区の土砂を水洗いしたところ、碧玉片50点、グリーンタフ片36点、滑石片2点が確認されている。

第31次：三島（三島神社・鏡池）地区（1999年）

三島（里中）東地区の東側に位置する。

調査区北側は神社境内地の整備で地山面まで削られていた。南側の鏡池は底が北側の地山面より2m低く、元々谷地形であったところを堰き止めて溜池としていたことが分かった。

池底の調査では、東南東から西北西へ流れる幅2～7mの自然流路が7条検出されている。これらの流路は三島（里中）東地区の流路1へ向かっており、一連の流路とみられる。主な遺物には、流路1から少量の弥生土器・古墳時代前期から後期の土師器・須恵器が出土した。流路2からは少量の弥生土器・古墳時代前期から後期の土師器・須恵器・緑泥石製の有孔円板が出土した。流路3からは少量の弥生土器・古墳時代前期から後期の土師器・須恵器・木製把頭や鞘・鉄滓・馬歯・桃核が出土した。流路4からは古墳時代前期から後期の土師器・須恵器・鞆羽口・馬歯が出土した。流路7からは数点の弥生土器・土師器・須恵器が出土している。

遺構は、調査区北側で検出され、古墳時代の柱穴群、中世から近世の井戸・溝・土坑・柱穴がある。古墳時代の柱穴は東側に集中しており、何らかの施設があったものとみられ、地形的に南側より一段高い。

第32次：杣之内（大東）地区（2000年）

西山古墳の東に位置し、谷地形を呈する。

遺構には縄文時代後期の土坑1基、弥生時代中期末の木棺墓1基、弥生時代後期末から古墳時代前期の溝1条・足場遺構・自然流路1条がある。

第33次：三島（サトモト）地区（2000年）

三島（里中）東地区と三島（三島神社・鏡池）地区の間に位置する。調査区北半は地形が高く無遺物層で、中央から南半で、南東から西北へ流れる自然流路が検出されている。流路は3条あり、北側から古墳時代前期、中期、後期の遺物が出土した。また、縄文土器片3点も出土している。

第 34 次：布留（上ノ垣内・出口）地区（2015 年）

布留川南岸で東から延びる丘陵の裾で、布留遺跡を見渡せる場所に位置する。遺構の確認を目的とした試掘調査のため、10 個所の調査区が設けられた。その結果、第 1 調査区で一辺が 70 cm を超える柱穴 1 基、第 7 調査区で大型土坑 1 基が検出された。また、古墳時代後期の焼土層の下には整地層があり、古墳時代後期以前から、活発な活動が行われていたことが分かった。遺物は、第 8 調査区で弥生時代中期の土器が、そのほか全面で弥生時代後期末から古墳時代の土器片が出土している。

第 35 次：布留（堂垣内）地区（2017 年）

第 17 次：布留（堂垣内）地区調査区のすぐ南側に位置する。調査区は布留川現流路から北へ 100m 弱離れており、布留川北岸の扇状地に当たるが、扇頂からの距離は 800m 足らずで、ほぼ扇頂部といって良い立地である。

調査区内は大半が大きく攪乱を受けており、遺存状態は著しく不良であるが、古墳時代中期の土坑から高杯や小型丸底壺、宇田型甕などが出土している。この土坑からは白玉も数点確認されており、何らかの祭祀に関わる場であった可能性も考慮されよう。

また、耕作土中からではあるが、円形のスタンプ文を施した初期須恵器も出土しており、注目される。

【文献】

第 1 次

1 末永雅雄・小林行雄・中村春壽 1938「大和に於ける土師器住居址の新例」『考古学』第 9 巻第 10 号 東京考古学会

第 2 次

2 史学研究会 1940「一、大和天理の縄文遺蹟」『史林』第 25 巻第 2 号（考古学談話会における澄田正一の発表報告）

3 島田 暁・小島俊次 1958「IV. 布留遺跡 天理市布留」『奈良県史跡名勝天然記念物調査抄報』第 10 輯 奈良県教育委員会

第 3 次

4 福原喜代男・小島俊次 1955「布留遺跡調査中間報告」『天理参考館叢書』第 10 号 天理参考館

第 4 次

5 近江昌司・白木原和美・置田雅昭 1967「13. 天理市. 布留遺跡出土品の整理(1)一透彫円筒埴輪一」『日本考古学協会昭和 42 年度大会 研究発表要旨』日本考古学協会

6 置田雅昭 1977「初期の朝顔形埴輪」『考古学雑誌』第 63 巻第 3 号 日本考古学会

7 置田雅昭 1989『布留遺跡出土の埴輪』資料案内シリーズ No. 23 天理大学附属天理参考館

第一章 布留遺跡の概要(下)

第5次

8 置田雅昭 1974「大和における古式土師器の実態 天理市布留遺跡出土資料」『古代文化』第26巻第2号 財団法人古代学協会

第6次

8 置田雅昭 1974「大和における古式土師器の実態 天理市布留遺跡出土資料」『古代文化』第26巻第2号 財団法人古代学協会

9 置田雅昭 1988「古式土師器研究 最初の布留式土器」『天理大学学報』第157輯 天理大学学術研究会

第7次

10 置田雅昭 1972「天理市布留遺跡出土の須恵器」『古代文化』第24巻第11号 財団法人古代学協会

第8次

10 置田雅昭 1972「天理市布留遺跡出土の須恵器」『古代文化』第24巻第11号 財団法人古代学協会

第9次

11 近江昌司 1983「石上寺・良因寺の成立と展開」『藤澤一夫先生古稀記念 古文化論叢』藤澤一夫先生古稀記念論集刊行会

12 嶋倉巳三郎 1974「古代遺跡から出るソバの花粉」『古代学研究』第72号 古代学研究会

第11次

13 天理市教育委員会 1979『布留遺跡範囲確認調査報告書』

第12次

14 毛利光用子・置田雅昭 1982『布留遺跡 布留（西小路）地区中世の遺構と出土瓦器 1976.9～1977.3調査』考古学調査研究中間報告6 埋蔵文化財天理教調査団

15 毛利光用子 1985『布留遺跡 布留（西小路）地区出土の中世土器 1976.9～1977.3調査』考古学調査研究中間報告11 埋蔵文化財天理教調査団

16 高野政昭・毛利光用子 1996『布留遺跡布留（西小路）地区古墳時代の遺構と遺物 1976.9～1977.3調査』考古学調査研究中間報告19 埋蔵文化財天理教調査団

17 金原正明 1991「布留遺跡出土の縄文時代中期初頭土器資料」『天理参考館報』第4号 天理大学附属天理参考館

第13次

18 置田雅昭・ジナ・バーンズ 1980『出土遺物の統計処理 奈良県天理市布留遺跡・三島（里中）地区』布留遺跡研究中間報告1 布留遺跡天理教調査団

19 嶋倉巳三郎・金原正明 1981『出土木器の樹種と木取りⅠ・Ⅱ 奈良県天理市布留遺跡・三島（里中）地区』布留遺跡研究中間報告3 布留遺跡天理教調査団

20 太田三喜 1982『出土果実および種子の同定Ⅰ 奈良県天理市布留遺跡・三島（里中）地区』考古学調査研究中間報告4 埋蔵文化財天理教調査団

21 置田雅昭 1985「古墳時代の木製刀把装具」『天理大学学報』第145輯

22 置田雅昭 1985「古墳時代の木製刀剣鞘装具」『考古学雑誌』第71巻第1号

23 置田雅昭・山内紀嗣・高野政昭・太田三喜・竹谷俊夫・金原正明・日野宏 1995『奈良県天理市布留遺跡三島（里中）地区発掘調査報告書一天理教神殿東・西礼拝場地区の発掘調査一』埋蔵文化財天理教調査団

第一章 布留遺跡の概要(下)

第14次

24 山内紀嗣・高野政昭 1981『布留遺跡杉之内木堂方地区発掘調査概要 1980.1～4 調査』布留遺跡研究中間報告2 布留遺跡天理教発掘調査団

第15次

18 置田雅昭・ジナ・バーンズ 1980『出土遺物の統計処理 奈良県天理市布留遺跡・三島(里中)地区』布留遺跡研究中間報告1 布留遺跡天理教発掘調査団

19 嶋倉巳三郎・金原正明 1981『出土木器の樹種と木取りⅠ・Ⅱ 奈良県天理市布留遺跡・三島(里中)地区』布留遺跡研究中間報告3 布留遺跡天理教発掘調査団

20 太田三喜 1982「出土果実および種子の同定Ⅰ 奈良県天理市布留遺跡・三島(里中)地区」考古学調査研究中間報告4 埋蔵文化財天理教調査団

21 置田雅昭 1985「古墳時代の木製刀把装具」『天理大学学報』第145輯

22 置田雅昭 1985「古墳時代の木製刀剣鞘装具」『考古学雑誌』第71巻第1号 日本考古学会

23 置田雅昭・山内紀嗣・高野政昭・太田三喜・竹谷俊夫・金原正明・日野宏 1995『奈良県天理市布留遺跡三島(里中)地区発掘調査報告書－天理教神殿東・西礼拝場地区の発掘調査－』埋蔵文化財天理教調査団

第16次

25 日野宏 1988「群集墳と集落に関する一考察」『天理大学学報』第157輯 天理大学学術研究会

26 高野政昭・太田三喜・日野宏 1999『奈良県天理市 布留遺跡守目堂(ツルクビ)地区・守目堂(罐子山)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告20 埋蔵文化財天理教調査団

第17次

27 北村博義 1987『布留遺跡 布留(堂垣内)地区縄文時代の出土石器 1983.4～1983.12 調査』考古学調査研究中間報告12 埋蔵文化財天理教調査団

第18次

28 泉 武 1985「3 布留遺跡(豊井地区)一豊井町」『天理市埋蔵文化財調査概報 昭和58・59年度』天理市教育委員会

第19次

29 太田三喜 1988「中世末期における居館の様相」『天理大学学報』第157輯

30 太田三喜 2006『奈良県天理市 布留遺跡 豊井(宇久保)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告24 埋蔵文化財天理教調査団

第20次

31 太田三喜・池田保信 1989『奈良県天理市布留遺跡 三島(木寺)地区・豊田(三反田)地区発掘調査報告』考古学調査研究中間報告16 埋蔵文化財天理教調査団

第21次

32 置田雅昭・太田三喜・矢野健一 1988『奈良県天理市布留遺跡縄文時代早期の調査 1984.12～1985.2 調査』考古学調査研究中間報告14 埋蔵文化財天理教調査団

第22次

31 太田三喜・池田保信 1989『奈良県天理市布留遺跡 三島(木寺)地区・豊田(三反田)地区発掘調査報告』考古学調査研究中間報告16 埋蔵文化財天理教調査団

第一章 布留遺跡の概要(下)

第 23 次

33 高野政昭・太田三喜・日野 宏 2010『奈良県天理市 布留遺跡 杣之内(赤坂・北池)地区発掘調査報告書 1987.3～1988.2』考古学調査研究中間報告 22 埋蔵文化財天理教調査団

第 24 次

33 高野政昭・太田三喜・日野 宏 2010『奈良県天理市 布留遺跡 杣之内(赤坂・北池)地区発掘調査報告書 1987.3～1988.2』考古学調査研究中間報告 22 埋蔵文化財天理教調査団

34 山内紀嗣 2013『奈良県天理市 布留遺跡 杣之内(北池・大東)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 28 埋蔵文化財天理教調査団

第 25 次

35 竹谷俊夫 1989「塚穴山古墳発掘中間報告」『天理参考館報』第 3 号

第 26 次

26 高野政昭・太田三喜・日野 宏 1999『奈良県天理市 布留遺跡守目堂(ツルクビ)地区・守目堂(鑓子山)地区 発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 20 埋蔵文化財天理教調査団

第 27 次

36 山内紀嗣 2010『奈良県天理市 布留遺跡 杣之内(樋ノ下・ドウドウ)地区発掘調査報告書遺構編』考古学調査研究中間報告 25 埋蔵文化財天理教調査団

37 山内紀嗣 2010『奈良県天理市 布留遺跡 杣之内(樋ノ下・ドウドウ)地区発掘調査報告書遺物編』考古学調査研究中間報告 26 埋蔵文化財天理教調査団

第 28 次

38 松本洋明 1992「1 布留遺跡(豊井地区)一豊井町」『天理市埋蔵文化財調査概報 昭和 63・平成元年度(1988・1989年)』天理市教育委員会

第 29 次

39 太田三喜・小田木治太郎 2013『奈良県天理市 布留遺跡 豊井(打破り)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 29 埋蔵文化財天理教調査団

第 30 次

40 泉 武 1993「布留遺跡一別所町」『天理市埋蔵文化財調査概報 平成 2・3 年度(1990・1991年)』天理市教育委員会

第 31 次

41 日野 宏 2013『奈良県天理市 布留遺跡 三島(三島神社・鏡池)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 30 埋蔵文化財天理教調査団

第 32 次

34 山内紀嗣 2013『奈良県天理市 布留遺跡 杣之内(北池・大東)地区発掘調査報告書』考古学調査研究中間報告 28 埋蔵文化財天理教調査団

第 34 次

42 北口聡人 2018「18. 布留遺跡群(第 34 次)」『天理市文化財概報平成 24～26 年度』天理市教育委員会

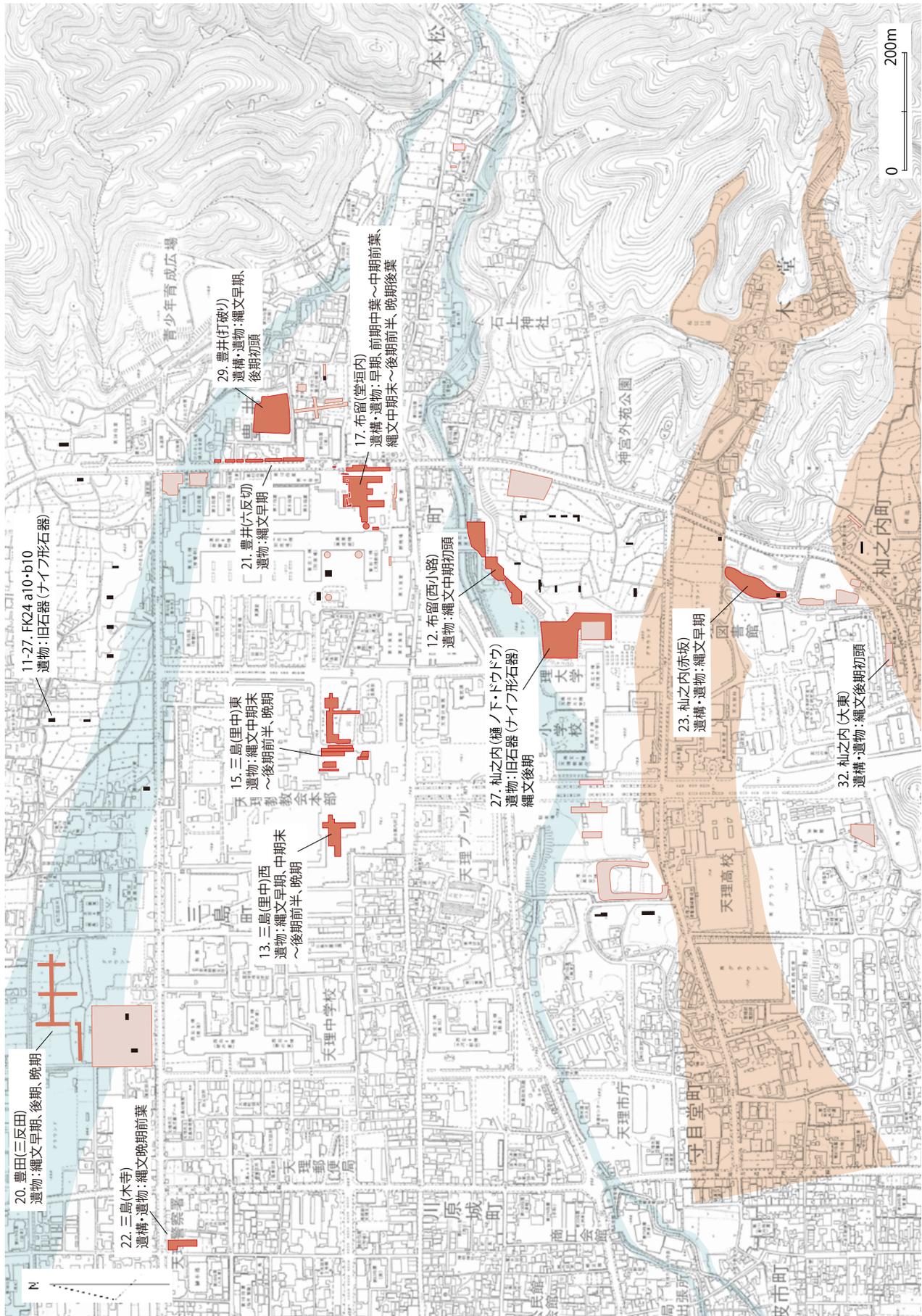


図 16 旧石器・縄文時代の遺構・遺物出土地

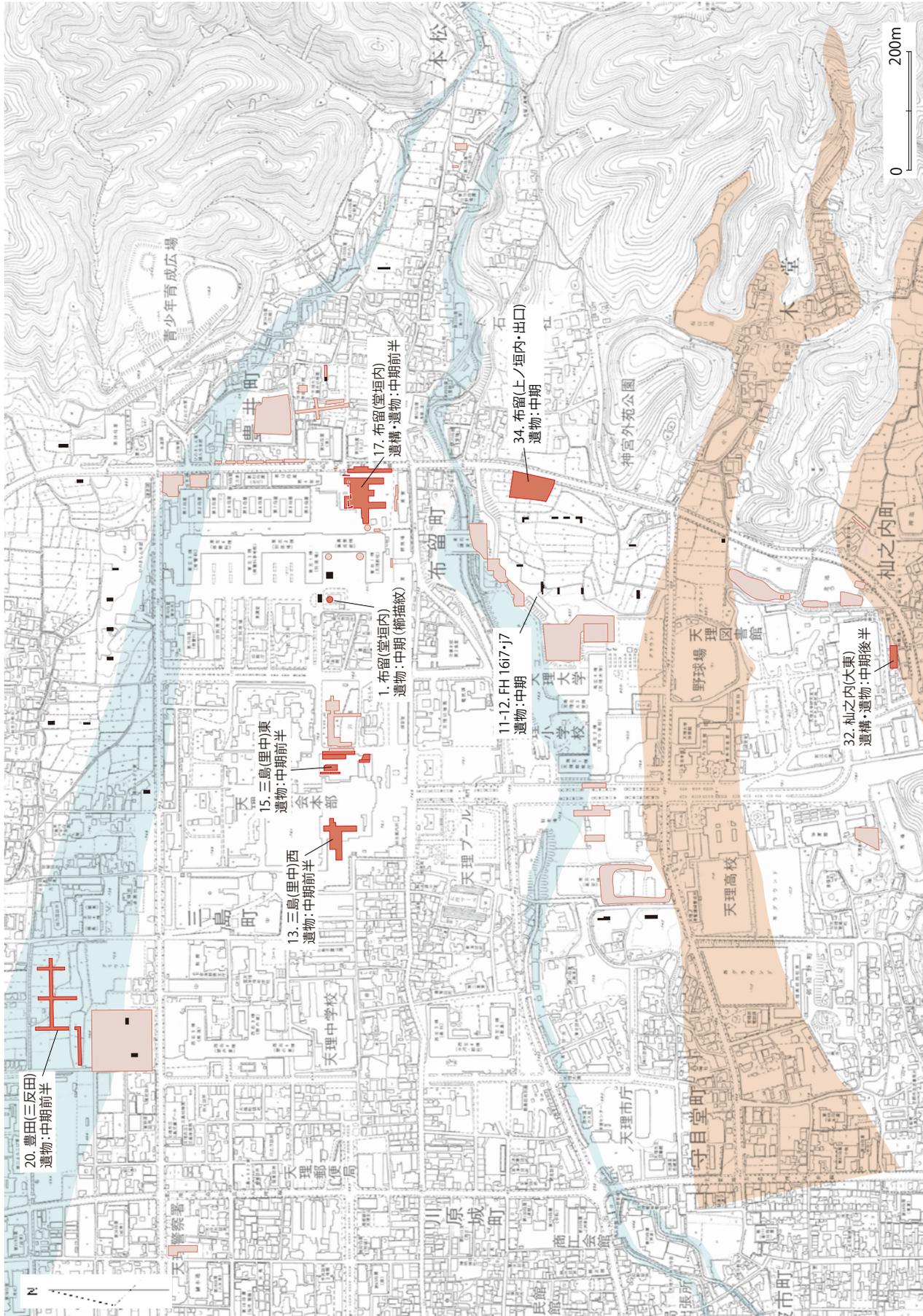


図 17 弥生時代の遺構・遺物出土地

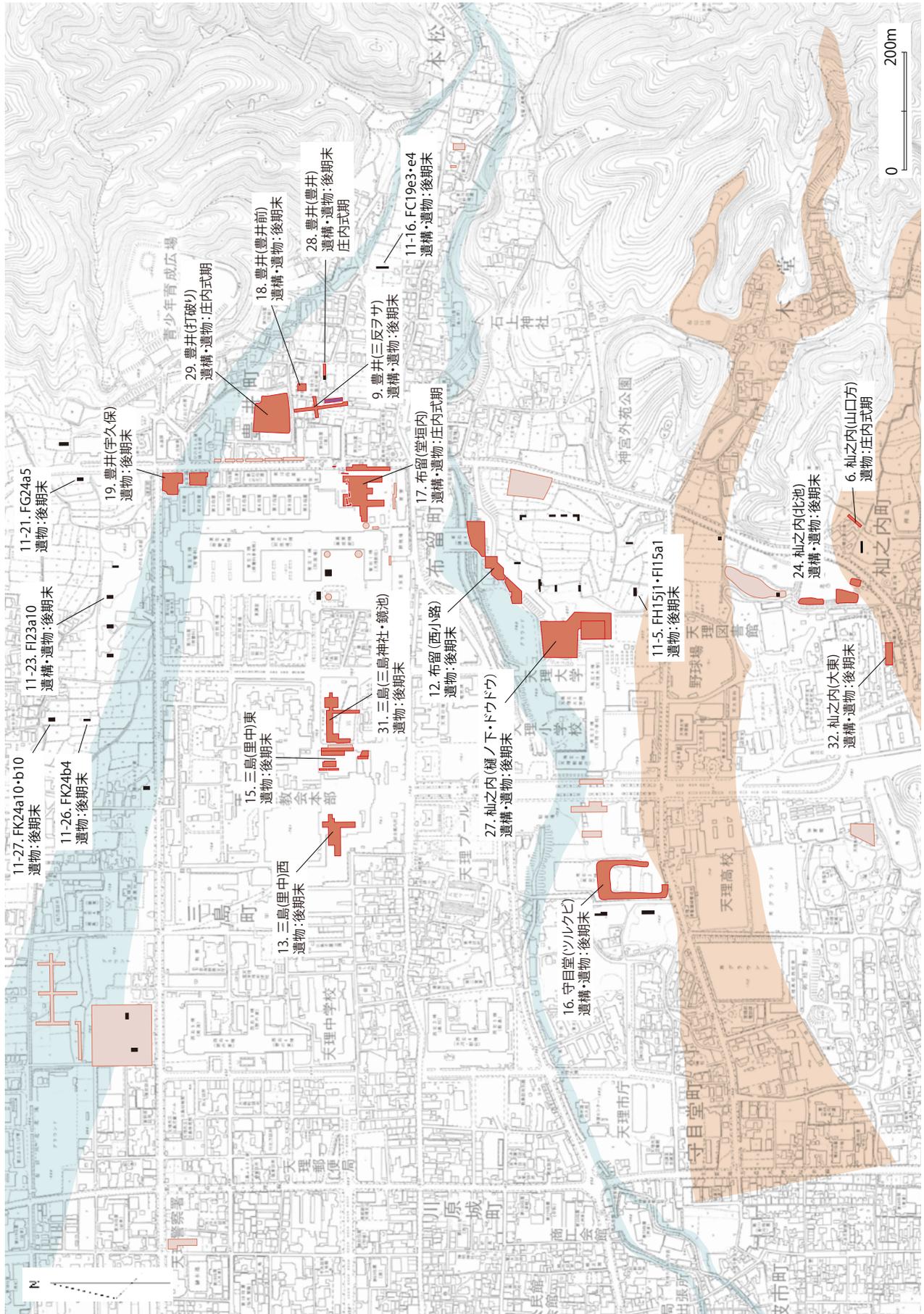


図 18 弥生時代後期末～古墳時代初頭の遺構・遺物出土地

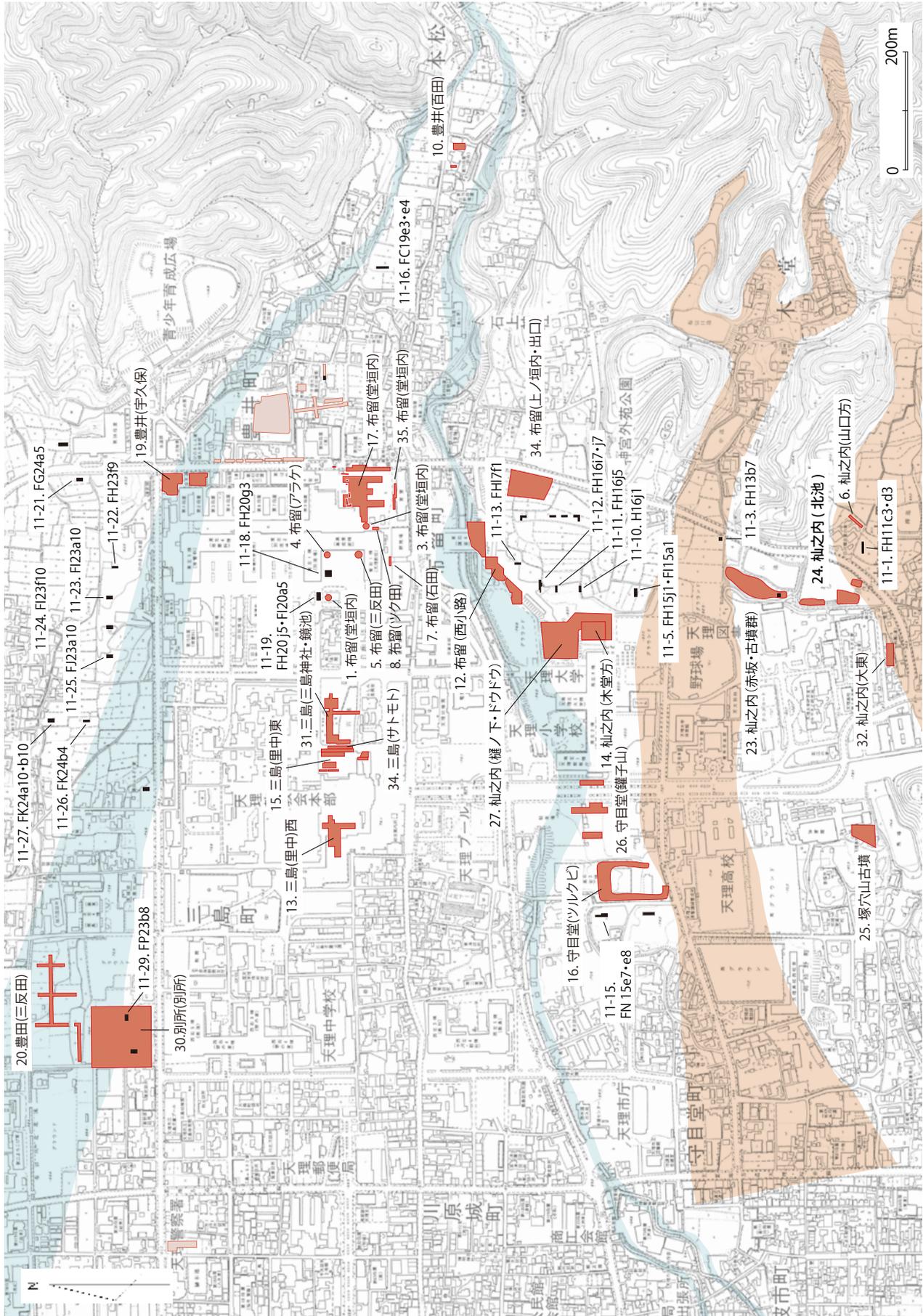


図 19 古墳時代の遺構・遺物出土地

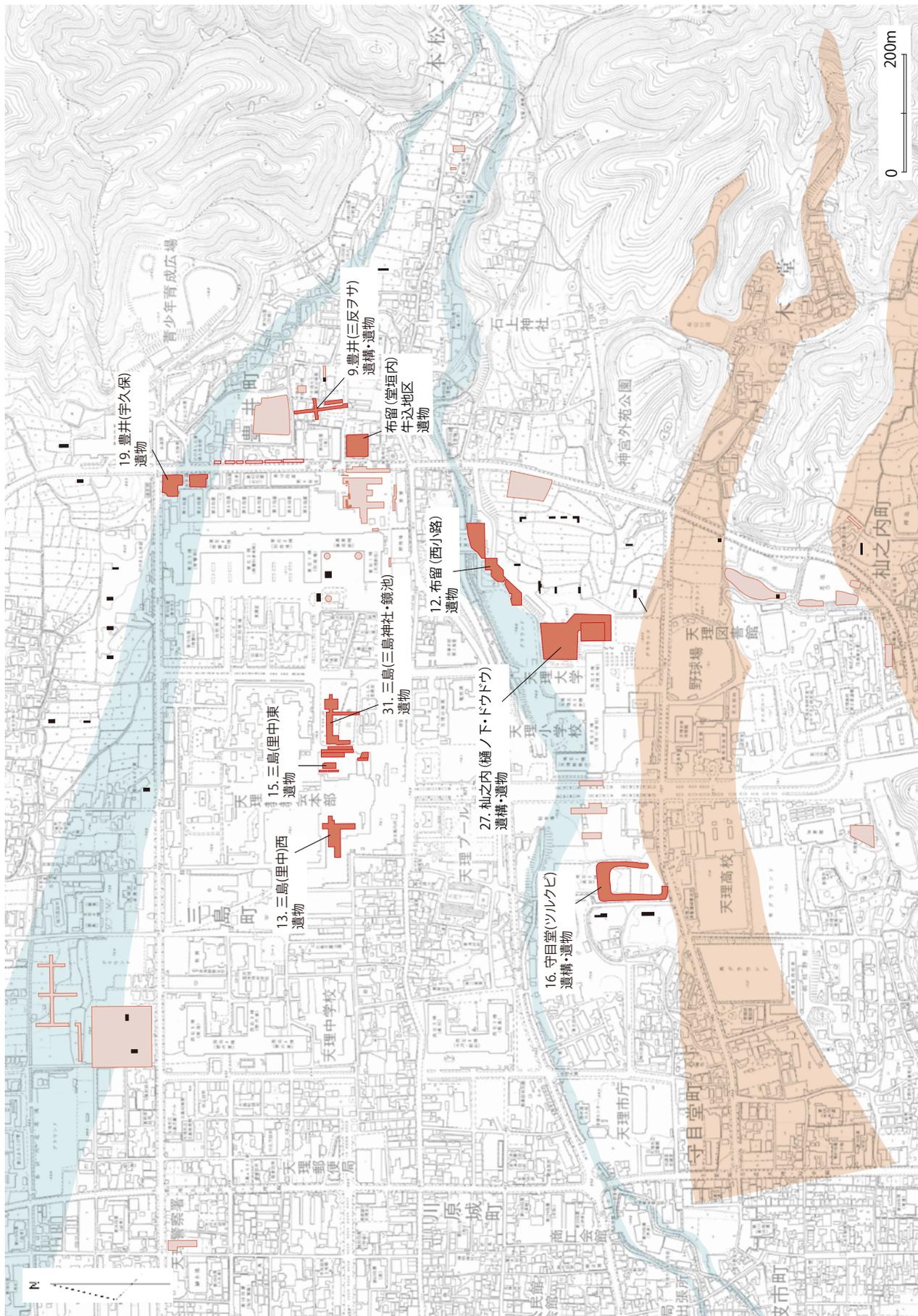


図 20 古代(飛鳥・奈良時代)の遺構・遺物出土地

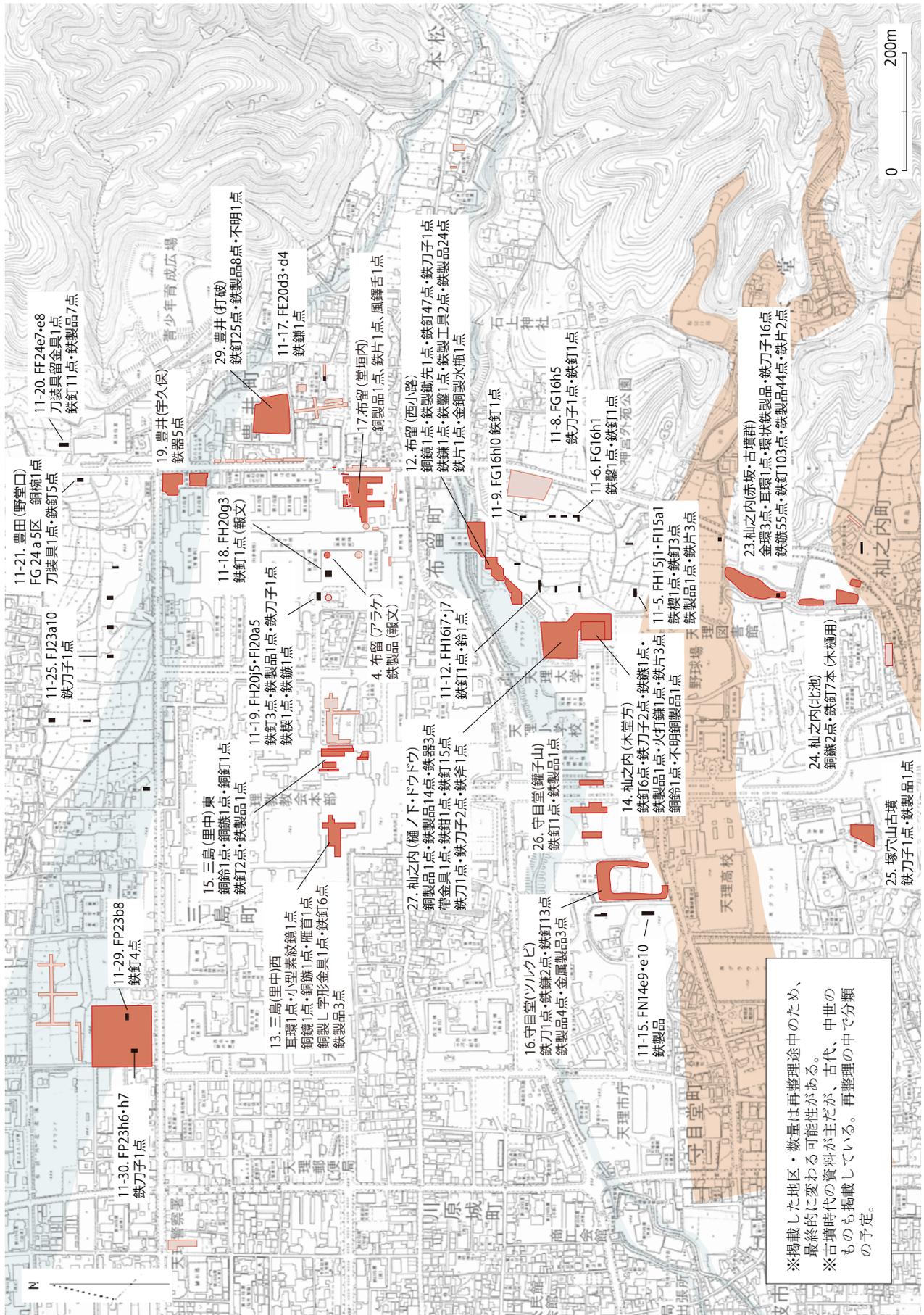


図 23 金属製品出土地区

※掲載した地区・数量は再整理途中のため、最終的に変わる可能性がある。
※古墳時代の資料が主だが、古代、中世のものも掲載している。再整理の中で分類の予定。

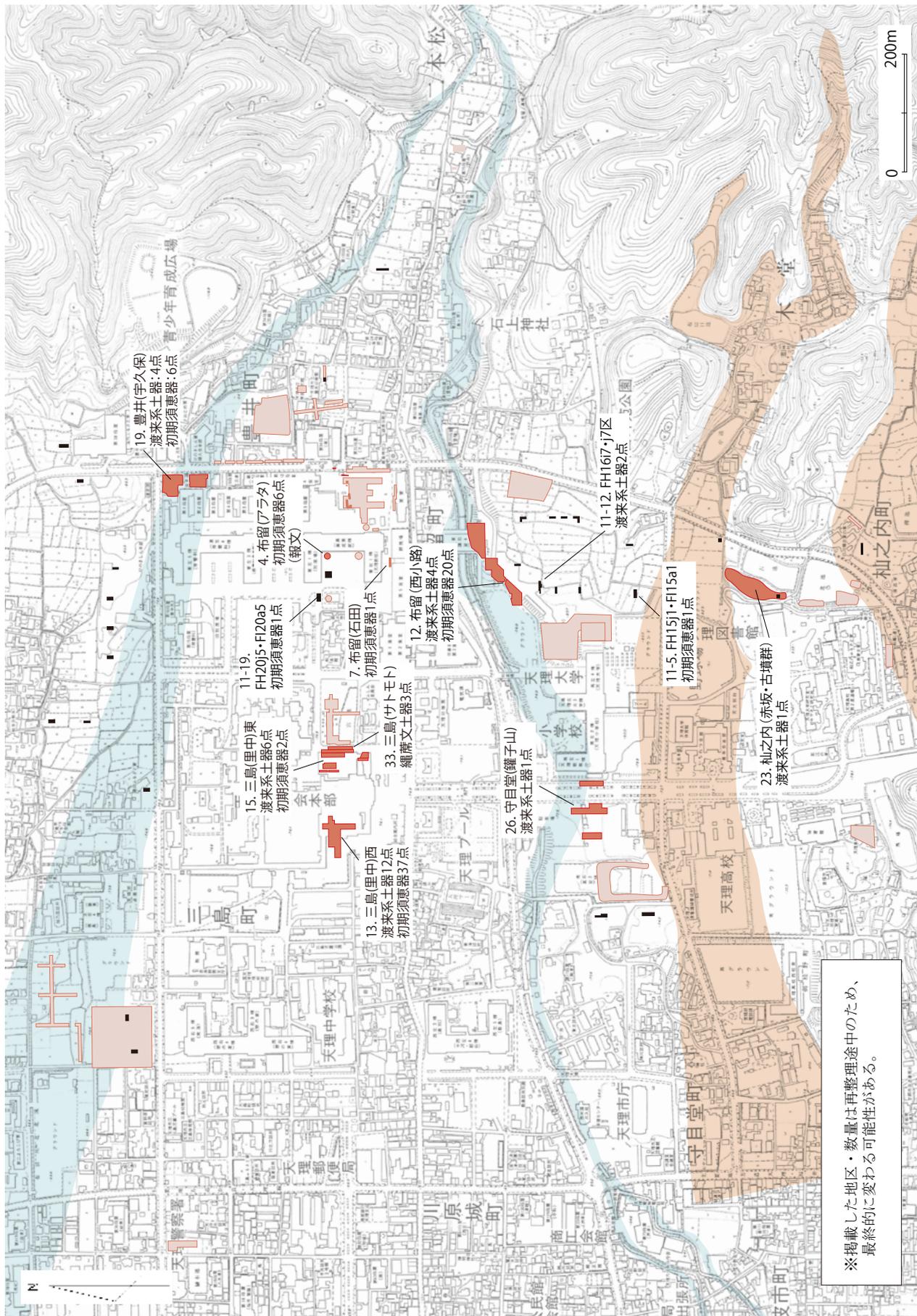


図 25 外来系土器・初期須恵器出土地区

